



賢女
今傳

千代物語

五

13
3037
5



門へ 13
番 3087
巻 5

千代物語 語卷の五

目録

- 千代女兩親小麻合の事
母悪縁をたたくむり
- 建部永之希海屋之返むり
危死を遁る事



人ハ古キ
 善クシテ
 名ノモト
 善クシト
 善クシト

麻布 北漢

山陽 奇談 十代物語卷之五

東都 鼻山人著

九 十代女お親お孫命の事

定家婦下品上生の事を保るお小立飯る後の事
 ちお地へえ垂巻の光りす人の上巻をみる代が父
 修平の考へ舟の上を定家して中國四国をよめる
 定家すあうあひまてけまの擧げし舟で船懸る

なほつゞま^{あて}的^{あて}のあ^あく又^あ國^{こく}を^をあ^ある^る時^{とき}も^もあ^あら^らし^しめ^める^る
ハ^ハ族^{しゆ}の^の貴^き宿^{しゆく}の^のを^を宿^{しゆく}ひ^ひつ^つぐ^ぐせ^せん^ん人^{ひと}不^ふ物^{ぶつ}を^をす^すべ^べし^し
あ^あら^らし^しめ^めば^ば珍^{せんとく}方^{かた}あ^あら^らし^しめ^めば^ば捕^{とら}ま^まる^る侍^{しやくし}の^の親^{おや}母^{はは}も^もあ^あら^らし^しめ^めば^ば
相^あ激^{げき}て^てそ^その^の人^{ひと}の^の情^{なさけ}を^を更^{さら}今^{いま}日^ひま^まで^で命^{いのち}を^を送^{おく}ら^らし^しめ^めば^ば
多^{おほ}敷^し敷^しま^まい^いせ^せて^てお^おお^おし^しら^らし^しめ^めば^ば逆^{さか}ら^らし^しめ^めば^ばそ^その^のお^おも^もの^の成^{なり}
難^{むづ}面^{づら}を^をう^うら^らら^らし^しめ^めば^ば法^{ほう}と^とも^もお^おお^おし^しら^らし^しめ^めば^ば吾^{われ}儂^{だら}が^がる^る
を^をも^もの^の成^{なり}を^をう^うら^らら^らし^しめ^めば^ば父^{ちち}母^{はは}の^のお^おお^おし^しら^らし^しめ^めば^ば然^{しか}る^るの^のお^おも^もの^の成^{なり}
を^をも^もの^の成^{なり}を^をう^うら^らら^らし^しめ^めば^ばい^いぬ^ぬ法^{ほう}も^も作^{つく}ら^らし^しめ^めば^ば平^{へい}が^がは^はま^まら^らし^しめ^めば^ば

くろの六五二

後^ごの^の國^{こく}を^をえ^え續^{つぎ}き^き者^{もの}の^の子^こを^をあ^あり^りん^んを^をテ^テか^かし^しめ^めば^ば
彼^から^らあ^あら^らし^しめ^めば^ば口^{くち}を^をあ^あら^らし^しめ^めば^ばの^のあ^あら^らし^しめ^めば^ば代^{しろ}が^が親^{おや}の^の増^まえ^えら^らし^しめ^めば^ば
夫^おト^と不^ふ明^{めい}き^きを^をう^うら^らら^らし^しめ^めば^ば者^{もの}必^{かならず}定^ま年^{ねん}の^の終^{はつ}つ^つを^をあ^あら^らし^しめ^めば^ば
其^{その}の^のあ^あら^らし^しめ^めば^ば後^ごに^に不^ふ男^{なん}を^を捕^{とら}ま^まる^る逆^{さか}ら^らし^しめ^めば^ば逆^{さか}ら^らし^しめ^めば^ば
と^とる^る之^のの^の美^み川^{がわ}の^の家^{いえ}の^の禍^{わざはひ}の^の出^で来^きる^ると^とい^いふ^ふの^のあ^あら^らし^しめ^めば^ば
後^ごに^に死^しな^なす^すと^とい^いふ^ふの^のあ^あら^らし^しめ^めば^ば逆^{さか}ら^らし^しめ^めば^ば
の^の國^{こく}を^を獨^{ひと}り^りに^に逆^{さか}ら^らし^しめ^めば^ば逆^{さか}ら^らし^しめ^めば^ば
と^とい^いふ^ふの^のあ^あら^らし^しめ^めば^ば逆^{さか}ら^らし^しめ^めば^ば

まがきくとも老のふさるる能く我くが老の杖とも
 咳もくもかむ能くはつばとの時仕方あてし防列の
 沙路もくもくまづめてみ代が船のうきまふ
 別ふ牛ひんちもあてし宛賢むさし物増ひひのまあト
 割してみ代を振ぎ扱ん自相志まう入を具してみく
 来るべし兄弟せえといひくればみ代は大きき不収ひ船か
 揚り永之希が許へ行くとも不相具してぞ来るうき
 侍与平まぬ対面して中々るる測るる縁あて娘と

配偶しあふ我くも他人よりおもひえらば我は新
 年往ぬれば外ふ力と嘆むむも人もあて又父とも母も
 母のひまをいふで苦閑あはれゆささとといふ永之希も所
 不令敷くしてせぬより船の中にあるかま楫もめ等びく
 あま対面させ申て侍与平ハ酒肴飲せさく船の内へ
 持せ毒娘とも殺ひるべしと舅も婿よとさるるあまこく
 いへく飲するふ侍与平も入らばくは後日和も
 能くあてあはれぬをけれ婿よの不地をせんといへる

若き^{えが} 楫^えと^えも^えの^えひ^えて^えいと^え増^えふ^えを^え扱^えり^えて^え漕^えり^えぐ^え
 大^えき^えの^え目^え張^え一^えつ^えひ^えて^え持^え来^える^えれ^えが^え永^え之^え糸^え收^えび^えて^え其^えが^え
 果^え被^え目^え出^え来^えり^え糸^え一^えつ^えひ^えの^え出^える^え糸^えを^え扱^えり^えぐ^え
 な^えは^え係^えの^え業^え不^え拙^えま^えく^えい^えど^えの^え某^えが^え庖^え丁^えに^えて^えく^えト^え又^え
 あ^えら^えと^えあ^えて^え一^え款^え酌^えん^えの^えい^えつ^えお^えと^えい^えが^えあ^えま^えど^えも^えあ^えり^え又^え寫^え
 ぶ^えぐ^え婿^えど^えの^え庖^え丁^え室^えあ^えて^え尋^えね^える^えあ^えら^えじ^えと^えい^えが^えた^えら^えぶ^え
 と^えて^え永^え之^え糸^え銀^え板^えを^え出^えし^えて^え料^えら^えん^えと^えす^えら^えら^え村^え取^え下^え
 通^えり^え海^え来^える^えれ^えが^え伴^えと^え平^え足^えと^えい^えつ^えお^え婿^えど^えの^え船^え不^えす^えむ^え

の^あの^あの^あを^あ猥^あつ^あむ^あ只^あ書^あた^あの^あの^あの^あ毎^あ不^あ送^あら^あ風^あの^あ
 あ^あら^あた^ああ^あれ^あが^あと^あて^あ婿^あど^あの^あを^あ尋^あね^ある^ああ^あら^あじ^あと^あい^あが^あた^あら^あぶ^あ
 と^あて^あ竹^あの^あ皮^あ笠^あを^あ出^あし^あな^あれ^あど^あ紐^あさ^ある^ああ^あら^あじ^あと^あい^あが^あた^あら^あぶ^あ
 針^あ持^あた^ある^あ船^あ中^あの^あ糸^あを^あ扱^あり^あて^あ永^あ之^あ糸^あ不^あす^あむ^あと^あい^あつ^あお^あ婿^あど^あの^あ船^あ不^あす^あむ^あ
 船^あ中^あ書^あ取^あり^あて^あ酒^あ壺^あの^あ糸^あを^あ扱^あり^あて^あ永^あ之^あ糸^あ不^あす^あむ^あと^あい^あつ^あお^あ婿^あど^あの^あ船^あ不^あす^あむ^あ
 明^あぬ^あ是^あの^あ永^あ之^あ糸^あ不^あす^あむ^あの^あ刀^あも^あ不^あ納^あめ^あて^あ糸^あを^あ扱^あ
 ら^あら^あち^あ更^あく^あ帆^あの^あ揚^あ取^あり^あ槽^あ械^あの^あ糸^あを^あ扱^あり^あて^あ永^あ之^あ糸^あ不^あす^あむ^あ
 学^あび^あ又^あ陸^あお^あ上^あり^あて^あ商^あ人^あの^あ妻^あを^あ扱^あり^あて^あ永^あ之^あ糸^あ不^あす^あむ^あ

は世上の風俗も小塩の侍室の侍あて人を
立退るが位室中あるよー 若くは彼若
トワて人あも多も能く見ればさうと
との坪のいはず又娘が兎角室の侍近く
たるをを獣ゆふのす名定は男室の侍
頼一と名えつるゆゆも摺し出され
保あふ縁ふつある科あや折
しては男を退あまぎは保甲を
あつと

侍と平実めと母のいづるがわく
侍扱あつては保甲のいづるがわく
さぬあつては保甲のいづるがわく
振舞もいづるがわく
僻るあつたといは男あ
るのをあつては保甲のいづるがわく
立子尋たあつては保甲のいづるがわく
さればは子尋たあつては保甲のいづるがわく



伊よつがつま
 与平妻
 婿を
 去るんと
 軟斗を
 ユむ

⑩ 建邦永之帝海底へ沈む事
建邦永之帝 海底へ沈む事

諸説子代ハ係る公てありと云々及おも志るはけら
 何とからん猶喋りてきふ無るものもまうれば
 ともは洋をささるる方後やあらんと母のふお母目
 ありて係る平ら高あひの使らあれはきき茶のくあ
 流るるどとて時方より 纜とれて西の方へ漕いで
 次の夜周防の玉宇が島まで往く改行をまると

子代五ノ九

永之帝も今んん安くと云やいほきも快然ある
 といふて立出舟のりあどを補るあお係る平ら太極ハ
 係る懐ふ竹ふ幸色をそその夜ハ酒をみ出
 永之帝あの子代あめりてく志あそ酔せあまはる
 皆く酒を飲せとらち伏せとらふと死子代を母付
 あひていつののあお休ませたまはるあり係る平らと三人
 又も永之帝酒を志あけりその夜も散ふと父の
 頃ふるあれば係る平ら船増く立出と係る面白の光景

よる婿むこのあも出く月つき又また多おほとらふ永ながと希まれも面おも
 白しろくくあそそとて侍いと平へいと押おし並ならんで立たつるををほま
 えすぬして後のちよりかりト突つつる永ながと希まれゆめ
 たまのぞき海うみいづとと霧きりとと侍いと平へいととぬ
 あまぬたりと抄しょう読よみその夜よのちあまをを記し
 楫かを垂たげせ西にしの方かたを漕こゆゆる子こ代しろの神かみあぬ
 舟ふねのまはけあやゆるゆるるるあだも知しらざるるくくあそ
 うとくれ去さ程ほど永ながと希まれるる子こ尋たずねのをああぬぬるるか

あ氏あ共共十十



恙やてて多おほ結むすををももららひひししればばそのその後のち永ながと希まれるる解と解と
 足あ物ものうち捨す命いのちをを恨うらみみああづづけけととああやや船ふねに
 漕こ退ひくくるる月つきの光ひかりううああ波なみををよよはは方かたとと扱あひひをを
 切きてて扱あひひありりくくああききひひああるるそのその夜よ月つき白しろくく風かぜ
 寂さびやくくとと波なみ穏おだかかるるああれればばそのその後のちああももああずず引ひ湖うみに
 侍いと平へい我われをを区まりりののかかせせんとと扱あひひのの舟ふねののささががをを
 んんととああららひひるるああままののああららひひととああままののああららひひ

いづる者あり 永三希をこえてそのゆかりを同永三
若くは横洲島の浪人あるが九列一海に如く夜
船にて盗賊不欺り海へ突と潜されゆが天運
ざるある一あやめのりず比船不深のひるてゆせし
先系めて持れぬ舟のぬえ入種かまもづ是を
せんとし神下まき子帯一箱刀一腰遠くより又まじ
くつらその舟あてらぬ不流る難用もあるほじ角
謀ららんまどわ我守まら仁保島の機不返りせ

らふしと情ある去澄ふ永三希も妻不あり難き連
先系不打連立藝列へあつ情一ををどたのそ
る香川の永三希を尋ねるあふト舟のひるれを
能く不芳りていぬ並るる借又作与平の念ある永三
城郭へぬとまびこの夜の中不船中へ渡渡還不
まきとこれに今ハ安堵とまぬ悲合とまづはる子代
ハ曉るる以親おくまトをゆとよ善くまへん法中
船も不泊しおあもあらざればコハいらふ不難く内

人 居 世 間
後 世 傳 名

浅く始末の後編の巻ふらじく解分款を
徳を

千代物語巻之五終

鼻山人著
千代物語後編
全五冊前後
合本而十卷
当丁亥春同時不出版賣出の事
浄覧の上相努らすは辨別の程を希



千代五十五

